

●五十公野公園野球場の老朽化について

Q.

私は高校野球を観に五十公野公園野球場に行くのですが、その時に思うのが老朽化です。出来てから30年以上が経ち、スタンドや外野の芝生がとても痛んでいると感じます。この場所で試合をする方たちや観戦する方たちの負担を軽減するためにも全面的に改修することをご検討いただきたいです。(バリアフリー化、スタンドの増設、バックスタンドは背もたれ付きの座席、内野スタンドは背もたれなしの独立した座席、外野芝生は人工芝にするなど)改修したのちにプロ野球の一軍公式戦を誘致するなど、訪れた方に新発田をもっと知っていただくことに繋がるのではないかと思います。予算のこともありますので、簡単な話ではないことは承知しておりますが、是非ご検討いただければ幸いです。

(令和7年12月受付)

A.

五十公野公園野球場につきましては、平成4年に開設して以来、30年以上の長きにわたり市民の皆様を中心に大勢の皆様から御利用いただいており、芝生やスタンド、諸室を含めて老朽化していることは、高松様御指摘のとおりであると私も感じております。

当市では、当該野球場のほかにもカルチャーセンターや陸上競技場、サン・ビレッジしばた、テニスコート、中央公園人工芝グラウンドに加え、豊浦・紫雲寺・加治川各地区を含めて小規模から大規模まで多種多様なスポーツ施設を有しております、その多くが老朽化による改修、設備等の更新時期を迎えております。そのため市では、利用者に安心・安全に御使用いただくこと、更には施設の長寿命化を図るため、計画的に改修を進めているところです。

五十公野公園野球場につきましてもこれまで、放送設備やスコアボード、ラバーフェンス、空調設備、暗渠設備、スタンド席、照明設備など損耗状況や安全性などを点検し、他施設の状況も踏まえながら、計画的に改修を行ってきたところです。既に、車いすの方なども1階での観戦が可能であるほか、芝生やスタンドについても、球場管理者や専門家などの意見も仰ぎながら必要に応じて計画的に改修することとしております。このように多くの施設を管理するなかで、それぞれを全面改修することは困難な状況であります。

なお、御提案いただいたプロ野球一軍の公式戦の開催については、五十公野公園野球場の数倍収容可能なスタンドや広いロッカールーム、雨天時のトレーニング場所、大型ビジョンを備えたスコアボード、テレビ放送に対応可能な照明や諸室、収容人数に見合った来場者駐車場などを備えている、ハードオフエコスタジアム新潟規模の球場が必要と考えられることから、五十公野公園野球場の規模で設備等を改修したとしても招致することは極めて困難でありますので、御理解いただきますようお願いいたします。

いずれにいたしましても、今後も市民の皆様が安心・安全にスポーツに取り組めるスポーツ施設の管理・運営に努めてまいりますので、御理解いただきますようお願い申し上げます。

(令和7年12月23日回答)

●バスケットボールができる施設が少ない

Q.

今現在新発田市には、バスケットボールができるところがサンビレッジ新発田、カルチャーセンター、紫雲の郷などしかありません。それに伴いバスケをしたくても、体育館は他のスポーツもする場所ですので、空いていることがありません。公園のバスケコートがあつたしても、雨天だとできないやリングが金属でバックボードがしっかりとしていらないのにプラスして地面が土のため練習にならないなどと本格的な練習ができる環境が揃っていません、それに伴い新発田市外のバスケクラブへの有能プレイヤーが出ていってしまいます。例え、体育館やアリーナを作るのは現実的ではないとしても、聖籠町民のバスケコートのようなものや他県ですが、新横浜公園のバスケコートのようなものを作るのはできないのでしょうか？新発田は昔バスケがとても強く、本丸や全盛期の猿橋は北信越3位まで昇るほどの実力でした。ですが今は中学校の代わりとなる、バスケクラブも少ないなどの問題を解決すると活性化にもつながるのではないかでしょうか？新発田は富樫勇樹選手を輩出した素晴らしい街でもあります。このままで良いのでしょうか？

（令和7年12月受付）

A.

新たに他市町村にあるような屋外リングの設置ということではありますが、屋外へ設置する場合、風雨などの影響による腐食や劣化が懸念され、過去には、日頃の点検や維持管理を行っていても、使用中に破損して事故に至った事例などもありますことから、新たな設置については、現在行っておりませんので、重ねて御理解くださるようお願いいたします。

一方で、屋内施設におきましては、市の施設である「サン・ビレッジしばた」や新潟県が指定管理する「紫雲の郷の体育館」に問い合わせたところ、御指摘のとおり、特に冬場の稼働率は高いものの、平日の夕方や休日の各種大会の終了後など、個人で利用いただける日、時間帯もあるとのことですので、事前に施設へお問い合わせいただき御相談いただけますと幸いです。

なお、どうしても個人利用の空き状況と都合が合わないなどの場合には、複数人での事前予約により、安価に御利用いただくことも可能ですので、併せて御検討くださるようお願いいたします。

また、本格的な練習ができる環境という点におきましては、市内にも小・中学生が活動するクラブチームが複数ございますので、そういうチームに加入して技術向上を図られることも選択肢の一つになり得るものと思います。御加入を検討される場合は、一度、市スポーツ協会へお問い合わせください。

（令和7年12月26日回答）

●プレミアム商品券の販売について

Q.

新発田市は、おこめ券を配布せずに、プレミアム商品券の発行発売をするという情報を見ました。プレミアム商品券は、何度も発売していますが、私は購入したことが一度もありません。なぜなら、購入するほどのお金の余裕などないからです。おこめ券を配布しないというのはよいですが、新潟市と同様に、現金給付にしてください。プレミアム商品券と言うならば発売ではなく、配布にしていただきたい。市民全ての人に行き届く支援が市民平等と言うものです。

(令和7年12月受付)

A.

昨今の物価高騰はとどまるところを知らず先行きが見えない状況が続いており、今後の生活に大きな不安を感じていることと存じます。

市民の皆様の生活への影響は非常に大きいと認識しておりますことから、まずは、早急に支援が必要な世帯へ先行して灯油購入費助成金をお渡しすることとして準備をしております。

このたびの対象世帯以外の皆様への対応につきましても、現在、検討を急がせているところであり、詳細が決まり次第、いち早く皆様にお知らせいたします。

また、プレミアム付き商品券は、物価高騰に苦しむ市民の皆様へ一日も早く支援を届けるとともに、地域の事業者、生産者への支援につなげるため、他の支援策に先駆けて令和8年1月30日から販売を開始するものです。

商品券の名称を「新発田市地域応援商品券」としているとおり、プレミアム付与による消費者支援だけでなく、市内の消費喚起を通じて生産者、販売事業者の皆様も一体的に支援することを目的としており、冷え込む地域経済を盛り上げるため、「消費者」と「事業者」を共に応援する効果的な経済対策としたいと考えております。

当市といたしましては、今後も福祉的支援と経済的支援の両面から「オールしばた」で物価高騰対策を進め、市民の皆様の暮らしの安定と地域経済の持続的な発展に向けて、引き続き全力で取り組んでまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

(令和7年12月24日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。